

令和２年度第２回淀川区区政会議

日 時：令和２年１０月２日（金）

午後６時３０分～午後６時４０分

午後７時３６分～午後８時２６分

場 所：淀川区役所５階会議室

○久保政策企画課長

皆様、こんばんは。本日は御多忙のところ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

会議の先立ちに当たりまして、委員並びに傍聴の皆様方に御案内させていただきます。本日の会議は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、換気のために窓も開放し、マイクについても発言者の交代ごとに消毒をするようにいたしますが、御理解のほどよろしくをお願いします。また、開催通知にも記載させていただきましたが、マスクを着用していただき、咳エチケットの徹底や、会場前に設置の消毒液による手指消毒に御協力をよろしくお願いします。

会議は公開しておりますので、ホームページや広報誌等の紹介用に事務局スタッフが写真撮影をさせていただきます。また、議事録を作成するために録音をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。なお、携帯電話は電源を切るか、マナーモードに切替えをよろしくお願いいたします。

それでは定刻となりましたので、ただいまより令和２年度淀川区区政会議第１回各部会及び第２回全体会議を始めさせていただきます。

私は本日の会議の進行を務めさせていただきます、政策企画課長の久保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方には御多用のところ、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

ます。

それでは会議冒頭初めまして、区長の山本より御挨拶を申し上げます。

○山本淀川区長

皆さん、こんばんは。区長の山本でございます。委員の皆様方におかれましては本当にお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。会議は8時半終了ということで、それを厳守したいので、私からの挨拶も簡略化したいんですけれども、区政会議のことだけに絞りまして少しだけお話をさせていただきます。私も担当者も区政会議につきましては、非常に重要なものだというふうに考えております。そのため、資料等につきましても少しでも委員の皆様方に御理解していただき、見やすくなるように工夫をしておるつもりでございます。もちろん、まだまだ不十分な点は多々ございますので、これからも改善してまいります。そのほか、委員の皆様方に意見交換がしやすいように、また、いただいた御意見のフィードバックにつきましても、これまで努めてまいりましたけれども、後ほど説明もあるかと思っておりますけれども、区政会議における意見交換やフィードバックが十分かという点について、委員の皆様からの御評価は6割少しということで、非常に厳しい状況になっております。この結果は、結果として真摯に受け止めまして、さらに努力してまいりたいと考えております。

前回8月7日の会議におきましても、いろいろと重要な御意見をいただきました。旧区役所跡地における図書館整備につきまして、例えば工事のときのフェンスに子供たちに絵を描いてもらってはどうかというような御提案をいただきました。これにつきまして、担当のほうで早速、事業者のほうと相談をしたのですが、現在そういう工事の安全塀についてはリースが多いようなのです。ですので今、殺風景やからといって、いろいろ木の模様がついたような安全塀とか多いんですけれども、勝手に何かを書き加えるっていうのは、ちょっと難しいかもしれないということで、今ちょっと不透明な状況ではございますけれども、今後も検討してまいりたいと考えております。

このように、せっかく皆様方から御提案をいただいても、実際に区政に反映できる事例が少なく、この点は本当に申し訳ないというふうに思っておるんですけれども、何とか実現できないか、区として動いていく、そしてその結果につきましては皆様方に御報告すると。そういうような姿勢につきましては、これからも続けてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

また、防災関係で訓練動画を早く配布してほしいという御要望もございました。この点につきましては、既に地域のほうに配布をさせていただいておりますし、また区役所のホームページのほうにも掲載をさせていただいておりますので、御機会がありましたらまた御覧いただけたら幸いでございますし、そのほか防災LINEにつきまして、目標約3,900人のところ、8月段階で約4,700人ですというような御報告をしたところ、もっと周知すべきだというような御意見もいただきました。現時点で5,500人を超えておるんですけれども、まだまだ台風シーズンも続きますので、これからもいろんな機会を通じて周知に努めてまいりたいと考えております。

そして、教育面におきましてはオンライン授業についても御提案があったかと思えます。これは、淀川区の子ども教育会議というような場でも話題になっておりました。教育委員会ともしっかり連携を取って検討を進めてまいりたいと思っております。

さらには、福祉関係の事業で相談会とかいろいろあるけれども、そういう相談に来られる人はまだましなんだと。そういう場にも来られない人に対して、どうやって手を差し伸べるのか、いわゆるアウトリーチについてが重要じゃないかということで、効果測定において、そのイベントに参加した人へのアンケートだけで十分なのかというような問題提起がなされたと認識しております。

その後、区政会議委員の有志の方から、いろいろ意見交換に関する御提案等もいただき、そういったことも経まして、本日のテーマの1つとして運営方針における数値目標の在り方というものを取り上げさせていただいたところでございます。

これからも皆さん方からいただいた御意見を大切にしていまいりたいと考えておりま

すので、本日も真摯な御議論のほどよろしくお願いを申し上げます。

いつもありがとうございます。

○久保政策企画課長

それでは、お手元の資料を確認させていただきます。まず、淀川区区政会議次第と書かれたもの。その裏面に配付資料一覧を印刷させております。次に、区政会議委員名簿。その裏面に座席表を書いております。続きまして、両面印刷で地域活動に参加しませんかと印刷されたもの。それと「よどマガ！」最新号、10月号をつけております。続きまして、会議資料以外に御意見票。本日、御質問御意見等、時間の関係でできなかった場合等に御利用ください。それと本日御提出できない場合用に、返信用の封筒をお配りさせていただいております。御意見票につきましては、本日お書きいただければ出口で御提出をいただくか、もしくはお帰り後、返信用封筒で御投函いただきたいと思います。

また参考に8月7日、前回の区政会議の全体会議の議事要旨と議事録をお配りしております。内容を御確認いただきまして、お気づきの点がございましたら、10月16日金曜日までに返信用封筒により御送付いただきたいと思います。

資料1、御意見を伺いたい内容と、資料2、運営方針は事前に御自宅のほうに郵送させていただきました資料になります。お持ちいただいておりますでしょうか。

配付資料に不足等ありましたら、挙手をお願いできますでしょうか。よろしいですか。

それでは委員の紹介に移らせていただきます。先ほどの全体会議の委員名簿を御覧ください。事前に体調不良、もしくは他の公務ということで欠席の連絡をいただいております方は、東三国地域の田中委員、宮原地域の山本委員、西三国地域の新井委員、木川地域の川阪委員、新北野地域の英委員、塚本地域の川合委員、三津屋地域の中本委員につきましては欠席の連絡を頂戴しております。泉水委員につきましては、遅れて来られるという形で聞いております。

続きまして、淀川区選出の市会議員に御出席をいただいておりますので、当番幹事順に紹介させていただきます。坂井議員です。

○坂井議員

市会議員の坂井です。今日は活発な御議論をよろしくお願いいたします。

○久保政策企画課長

寺戸議員です。

○寺戸議員

こんばんは、寺戸です。どうもお疲れさまでございます。

○久保政策企画課長

時間の関係上、区役所の職員の紹介は省略させていただきます。先ほどの名簿の裏面に座席表をつけておりますので御参照ください。

本日の終了時間ですが、通常であれば午後 8 時 30 分終了をめどに進行をさせていただきますいておりますが、委員の発言状況によって進行が早まった場合には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、早期に会議を切り上げて終了させていただきたいと存じます。御協力のほど、よろしくお願いいたします。また、発言、説明の際には、できるだけ簡潔にまとめていただき、スムーズな進行を御協力よろしくお願いいたします。

それでは資料の次第に沿いまして、3、議題に移らせていただきます。

本日、既にこういう形で配席いただいておりますように、まず部会ごとに議題 1、令和 2 年度淀川区運営方針の中間振り返りについて意見交換をしていただきまして、意見交換後、5 分程度休憩を挟みまして全体会議に移行し、各部会から出た御意見について部会ごとに発表していただきます。部会で意見をまとめていただく必要はありません。各部会でどんな発言があったどうかを紹介していただきたいと思います。発表者はどなたでも結構ですので、部会内で決めていただきたいと思います。

では、区役所の職員も既に部会に配置をさせていただきますので、それぞれ 3 部会ごとに意見交換を始めてください。よろしくお願いいたします。

(部会ごとの意見交換)

○久保政策企画課長

それでは予定の時間が参っておりますので、ここから全体会議に移らせていただきます。

仕事の関係で泉水議長が遅れておられるようですので、ここからは増田副議長に進行をよろしくお願いします。

○増田副議長

それでは、各部会で出た意見を共有したいと思います。よろしくお願いします。

では、教育・子育て部会の内容をお願いします。教育・子育て部会はどなたがされますか。

○石田委員

失礼いたします。教育・子育て部会の石田と申します。

本日出た意見としましては、課外授業の推進、ヨドジュクについてでございます。現在は十三会場、美津島会場、東三国会場で、合計55名が受講している状態なんですけれども、会場を増やせば、例えば地域社会福祉会館などを使えば、もっと多くの人に受講していただけるのではないかとということでした。それから、評価の指標でございますが、現在このヨドジュクの参加生徒のアンケートで、週5回以上自宅学習に取り組むという指標ですが、目標は週5日ではなく毎日にしてみてはどうですかという意見が出ました。

続きまして、課外学習の推進、小学生補習事業についてです。内容は各小学校に任せられているということで、宿題をするなど、実質の子供は宿題をして帰ってくるなど、そういう宿題だけになっているのではないかとこの御意見でした。それから、この評価の指標ですが、全実施校における年間の平均参加児童の合計なんです、参加者には申込みをしているだけで、実質に参加していない子供も含まれているのではないかとこの御意見が出ました。評価目標は360人以上なんですけれども、実質の参

加している子供の実数はどうなっているのかという質問でした。

次に、生活困窮家庭の子どもへの学習支援として、子ども未来輝き事業というのがございます。こちらのほうは、小学校１年生から中学校３年生までが参加しているということで、参加する子供の年齢差が大きいということで、子供の目標、例えば漢字をマスターするとか、中学校３年生になったらもっと大きな目標も出るので、年齢差によって子供の目標、何をを目指すのかというのが違うので設定が難しいのではないかなという御意見でした。

次に、地域子育てサロン助産師巡回相談という事業がございます。子育てサロンはもともと外に出られない方、子育てに悩んで鬱になって引き籠っている状態の方を対象にしていた。それで出てきていただいて、仲間で一緒に子育てをしていこうという目的だったのですが、今の子育てサロンっていうのは活発に出てこられる人ばかりが対象になって、そういう引き籠もりになっていらっしゃる方にちょっと目が向いてないのではないかなということで、目的が変わってきているという御意見が出ました。こちらの評価の指標なんですけれども、地域子育てサロンに参加する乳児の割合が３５％ということになっているんです。目標について、この３５％というのは、今現在子育てサロンに来ている乳児の割合を計算したものとなっておりまして、意見が出したのは淀川区に生まれた新生児の割合から、参加する子供たちが３５％以上になればいいのではないかなというか、増えたらいいのではないかなという意見が出ました。

以上でございます。

○増田副議長

ありがとうございました。

それでは次、安全・安心なまち部会、増田のほうから報告させていただきます。

安全・安心部会のメンバーで、こちらのようない意見を出し合いました。何を話し合ったかということ、各具体的な取組の数値目標の設定内容についてということと、どのようなものであれば取組の効果測定を行う目標として望ましいのか、あるいは現状の

目標で問題はないのかというような視点で話し合った内容です。ここに書かれてないんですけども、そもそも目標って100点満点を目指すものなんじゃないのっていうような話も出ました。でも、この数値がいろいろなところで40%であったり、それから85%であったりするというのは、現状を見た上で現状よりも1つ、ワンステップ上がるっていう意味での設定になっていますというようなことを、区役所の方から説明を受けました。あとは、こういった内容だったんですけども、イベントに来る人の防災意識はもともと高いので、不特定多数に向けた指標が必要なのではないのかというような視点であるとか、成果指標である7日分の備蓄を達成できるような指標になっていないのではないのかとか、イベントの防災意識の向上といった指標よりも効果的なものがあるのではないのかといったことや、備蓄が必要だと頭に分かっていても動けない人がいると思うので、行動に移せるような目標にしてほしいというようなことが自助の部分では出ました。

共助の部分では、目標設定をもう少し上げてよいのではないのか。ここは津波避難ビルのことを知っている人を40%にするというような目標だったので、それでいいのかというような話も出ました。啓発に当たって、津波避難ビルがもうちょっと分かりやすい場所、例えば高い場所に印があれば普通に歩いていても「そこが津波避難ビルなんだな」というようなことが分かったりすると、この40%が上がるのではないのかというような意見も出ました。

公助に関しては、ここは1カ所の災害時医療ローリングストックの見据えた医療機関との連携協定を1件結ぶというようなことだったので、あまり意見が出ませんでした。

地域安全対策に対しては、成果指標に適合した目標になっているというような評価が出ました。

見守り支援体制に関しては、こちらは無作為で測定できる指標というような視点が必要ではないのかというような意見が出ました。

以上です。

それでは、コミュニティ向上部会の内容をお願いします。

○奥委員

コミュニティ力向上部会、少しですが説明をさせていただきます。メンバーの中で出たことを書いていただいているので、この箇条書を読ませていただくようなことになるんですが、要は全体の中でコミュニティ力というのは、コロナもありまして全く下がっているというのが間違いないと思います。これを作ったときはコロナ禍っていうのはあまりは意識しないというか、そういう状態で作ったものでもありますので、これ以外の話も結構出ちゃったのかなとは思っています。

やはり今は、若年層というと地域の関わりっていうのは非常に少ないということで、全体にここの目標値というものが本当にこれでいいのかっていうことを、一生懸命、区役所の方もおっしゃっていただきました。そもそもの目標値と書いている目標値の％とか、こういう数値が何かっていうと、実績から比較してきてこんなもんのかなというふうに言われているところです。そうすると、やはり若年層ってそもそも地域とは関わらないっていう現実があるのであれば、現実には地域の共助を互いに、その住まいのお隣さんにつながっているかというのは、もう40％ぐらいで当たり前ちゃうのっていう話も出ました。それをどうしていくのかっていうと、やはり増やしていきたいというのであれば、その方法に対して、やはり共助っていうものをもっと前に出せばいいのかなと。今、新しい総理大臣が自助、共助というだけでもあかんやろ、公助やろと言われる時代になって。僕らは共助っていうことを前に出すのがコミュニティ力なんだと思っていますので、そのためにどうすればいいのか。やっぱり皆さん興味のある防災や祭りなど、こういったものをどんどんどんどんアピールしていくのが大事なのかなと。

その世代間の関わりも、非常に今少なく言われてしまっています。だから、盆踊りやろうと言っても、やっぱり運営しているのはもう本当に地活協のメンバーだけ。こ

ここにもあります、NPOとか企業、盆踊りでも企業さんが入ってきていろいろ、こうね。実際企業さんが入ってきてるところもあれば、何でそこで宣伝せなあかんねんっていうことで一切そういうことをしないっていうのも、まだ風潮としてあると思います。

やはり地域としては、NPOや企業とか、そういったものがどんどんどんどん入っていくこと。地活協さんというのはどうしても、もともとが町会の延長にどうしてもなってしまうので、町会員からお金をもらっている会員さんとそうでない人の区別っていうのができてしまうから。地活協っていうのはそうじゃない、町会ではない全部だっているのであれば、企業やNPOがもっともっと入っていてもいいんじゃないのかな。やはり、地活協をつなげるといっても、地活協に限定しなくてもいいとか、地活協じゃなくても今いろんな助成金とかもNPOさんのほうに広げているということが出てきてます。そういったものをもっともっと広げていく。また、地活協であるのであれば、地活協さんとの連携っていうものを数値目標に上がっていますけれども、もっともっとそこをアピールしていったらいいんじゃないのかなっていうふうに話が出ました。その新しい取組っていうのは、広報誌とかいうものをやはりどんどんどんどん周知していくことで、皆さんの区民の方に広がるのかな。

地域の受入れ態勢。これも地域で地活協さんに、こんなイベントをしたいんですって言うような窓口すら知らないわけですよ。企業さんだって地活協に、どこに地活協があって、どうコンタクトすればいいかが分からないことがいっぱいあると思います。ここら辺のことも、広報して整備していく必要があるんじゃないのかな。そういうためには、ツキヨの強いイベントができればいい。その訴求力の強いイベントっていうのは、今までのやり方ではできないと思うので、企業さんやらNPOさんの新しい感覚っていうのを入れていくっていうのが大事なのかなとは思っています。

コミュニティ全体ではやはり、SNSとか発信力ってことも非常に今出てきていますので、確かに「よどマガ！」これも本当に充実してきたのは事実です。広告まで入

ってきてるわけですから、そんなんであんなかっていう発表も事実、変わってきているので。そういう変化もどんどんあっていいと思いますので、情報発信、特にインターネット関係で皆様が情報を受け取れるっていうことを、もっともっと増やしていつてあげていただきたいなと思っています。

次に、区民のための区役所づくりという課題になります。区民ニーズの適格な反映とかいうのがありまして、全体では、区役所は、ここは僕の意見なんですけど、そもそもサービス業に成り下がっていただきたくはないと思っています。笑顔でへらへらして、ゴールは何かというと、笑顔があることによって売上げが上がるんかっていうような企業さんとは違うってことで。このサービスっていうものは何なのかっていうことを、僕個人的には疑問に思っています。その中で、別の項目にもありましたけれども、業務運営と窓口サイドの向上と一緒に、風通しのいい区役所、職場にするためにどうしたらいいのかっていうことでちょっと意見に出ましたけれども、やりがいや誇りっていうものを持っていただくことによって、自分が区役所に勤めていることの誇りっていうのがあれば、もっともっと元気に笑顔で接客できるんじゃないかっていうふうに感じていましたってことです。

ざっとそういうところ辺で、下がっているコミュニティ力向上部会としては、何かやらなあかんなと思っています。

これからもよろしくお願いします。以上です。

○増田副議長

ありがとうございました。

それでは以上の3部会からの報告について、部会のほかの委員の方の補足はございませんでしょうか。何かありましたら、お願いします。

他の部会の方からも、この部会のこのことを聞きたいっていうようなことがあったら、ぜひ御意見をお聞かせください。

いかがでしょうか。言いにくいですかね。

まだ時間はどうですか。ありますか。

○藏本政策企画課担当係長

あります。

○増田副議長

そしたらまた1回ちょっと話してもらいましょうか。どうですか。

ざっと話してもらって、さっきのコミュニティ力のこの話をもっと聞きたいわとかかっていうところがあったり、安全・安心のここを聞きたいみたいなのがあればお願いします。

○奥委員

僕、ずっと主任児童委員を長くやっていますので、子育てサロンとかはずっと運営してきたほうなんですけれども。そもそも子育てサロンっていうのは、どういうふうにしてPRしていったらいいのかな。本当にたくさん増えればいいのかっていう中で、僕もどっちかといえばイベントを一生懸命にやって、あっちこっちからイベントして保育士さんとか来ていただいて絵本を読んでもたりとか、いろんなイベントをすることによって集客のように集めるという手法を取っています。また違う地域では、そんなんしたらあかんと。そんなん要らんと。居場所づくりで提供しているだけやねんからっていうことも言われたりもします。でも今は、割とよう知ってらっしゃるように、根本的に若い人たちはつながらないのかっていったら、実は違いますよ。今はやるマンションは、コミュニティというものが用意されたマンション。共有スペースがあって、そこで皆さん住人さんがいろいろ交流できるようなマンションっていうのは、実は今人気があったりするんです。ですから、確かに時代はもう変わってきています、どんどん。若い人たちがそうやって、人とつながりたいっていうようなこともたくさん思ってもしないのは何でかっていうと、町会という昔の考え方っていうのがあるっていうのが事実だと思います。僕は個人的に、町会費を取らない町会って作ってみたら、特区で作ってみたいなと思っているんですけれども。本当につながりたいとい

う人をどうつなげるかっていうことは、くるっと変えていかないとならないのかなと思っています。コミュニティを上げていくためには、やはり今インターネットの時代になっているのでメールで連絡を取りますね、S k y p eで会議しましょう、L I N Eグループでビデオ会議しましょうって言っても、やっぱりうちのというか、うちのと言ったらばれてしまうんですけど、案内するのにメールでいいですかって言うたら、「あかん、紙持ってこい」って言う人がやっぱりいてはります。そういう方にも協力していただく。メールとかL I N Eとかを使えるように協力していただくっていうことをお願いし、学習していただくこともこの時代なのかなと思っていますので、皆さんの中で、今回ちょっと前回そんなことを言ってたと思うんですけども、Z o o m会議じゃないか、ビデオ会議で区政会議をやりませんかみたいな御提案もさせてもらったんで、そこをちょっと今日議論していただけるんですかね。

○藏本政策企画課担当係長

この次の議題です。

○奥委員

この次。そういうようなところ辺でコミュニティを上げていくということは、我々がやっぱり意識を変えていこうじゃないかっていうふうには考えています。

○増田副議長

ありがとうございました。

奥委員、すみません。今のは、教育・子育て部会に関する何かの御意見とかって。

○奥委員

ごめんなさい、それてしまいましたね。失礼しました。

教育・子育て部会さんとしては、子育てサロンってことの在り方というものでも、ここも同じように、今まで僕も前の区長さんにはちょっと言わせていただいて、子育てサロンをやりたい、手伝いたい、ボランティアをやりたいって言っても、断ってるっていう現状がある。そういうものも意識改革していかなあかんの違うかなと思いま

す。もっともっといろんな人が関わってきて、今は自分の赤ちゃんで初めて子供どもをだっこする人の割合ってというのが25%ぐらいだっという話なんですね。要するに、近所とか兄弟の赤ちゃんをだっこしたことがない女性がすごく多いってということらしいです。それほどに、赤ちゃんをだっこしたこともない、言い換えたら今度は人が死ぬときに死体を触ることすら減ってきてしまった。そういうような世の中でもありますので、子育てサロンの在り方というものも、ちょっと一から掘り返してもらってもいいのかなというふうには思いました。

○増田副議長

ありがとうございました。ほかに、何か御意見がありますでしょうか。

○米山委員

1つお聞きしていいですか。

○増田副議長

米山委員、お願いします。

○米山委員

私は地域で子育てサロンのお手伝いをしてるんですが、一番気がかりなのは赤ちゃんたちがすぐおもちゃを口に入れることです。その除菌・消毒は、各地域でどのような対策が採られているか、ちょっとお聞きしたいんですけども。どなたか教えてくださいませんか。

○米田委員

新高の米田です。私も新高で主任児童委員をさせていただいておりまして、おもちゃに関しては、もう今はぬいぐるみ関係は全く出しておりません。ふけるもので消毒。今のコロナ前から、消毒を使った後はしてる状況です。今、新高に関してはコミュニティ会館といって、また福祉会館とは別の施設がありまして、そこの床がすごく汚かったので、今はふける状態の敷物を敷いて、終わった後に除菌スプレーで全部ふいていますという状況です。そして今コロナ禍にあって、新高は10月も開催しないんで

すけれども、今はちょっとおもちゃに関しても古かったので、予算を一応地活のほうに上げてましたので、おもちゃをふきやすいものとかのほうに今徐々に変えていってる状況です。

以上です。

○増田副議長

ありがとうございました。

ほかに、今の話題ではなくても、ほかに何か御意見はありませんでしょうか。具体的な取組の数値目標の設定内容についてとか、どのようなものであれば、取組の効果測定を行う目標として望ましいか、などのようなことで、もしありましたら御意見をお聞かせください。

お願いします。

○米田委員

新高の米田です。地域安全対策の件で、ちょっとお尋ねしたいんですけれども。子ども見守りといって新高の地域の中に組織があるんですけど、そこで見守りをさせていただいているんです。私の場合は学校の下校時の見守り担当をしているんですけど、ほかにも重点に取り組むということで、子どもの見守り活動への支援がいっぱいいてるんですけど、なかなか新高に関しては今見守りを見てくださる方が減ってきている状況で、ほかの地域さんも結構その辺出ていただくんですけど、やはりジレンマすることのほかこういう調査に関して、ほかの地域はどのように取り込まれているのかなっていうのをお聞きしたいんですけれども。よろしいですか。

○増田副議長

ありがとうございます。

今の質問に対して、うちはこうしてるよみたいなものがありますか。安全・安心なまち部会として答えたほうがいいんですかね。

○藏本政策企画課担当係長

誰でも結構です。

○増田副議長

誰でもいいそうですけれども。いかがでしょうか。

そしたら、私は新東三国なんですけれども、やはり新東三国も子供の見守りの時間帯に自分の地域にいる人がとても少ない地域になります。住宅地で勤めている場所がよそにあるっていうふうになると、どうしてもその間が空白になっているということです。何か、どうしたらその部分を埋められるのかなということは、今も課題になっています。ちょっとこの前の交流会のときにも話が出たんですけれども、実はもう70以上でも皆さんお勤めをされていて、外に勤めに行っていると言うんですね。その中、試練ってというかそういった方たちが地域の中で本当に小さいジョグになるかもしれないんですけれども、そういった形になったらいいなというような話も出たりしました。今の方たちは、本当に生涯働いているっていうようなことで。だんだんに地域の中に人が少なくなっていってるのかなっていうことは、共通の課題なのかなっていうふうに思っています。そういうような地域はありませんでしょうか。

お願いします。

○米山委員

野中地域も非常に少ないんです。ただ私、ウォーキングをされていて感心するのは、田川さんとか神津さん、ぎょうさん出てはりますわ。ウイな方は遠いんですけどね、非常に地域の方が協力されているなと思って、見習わなくちゃいけないと思ってますけども。野中でもちょっと反省して、こないだ辻川社協会長が青少年推進育成会議を開いて、各団体さんに集まってもらって、見守りをいかに広げていくかっていうことを相談して。先週の金曜日ですね。だから、間もなく各町府会に対して、協力依頼があるかとは思っていますけども、なかなか人手っていうのは、結構暇なお年寄りもいるんですけどね。そういう方が、ちょっと入りにくい雰囲気なんで。そういう方々が積極的に入れるようにしたらいいかなと思っています。

以上です。

○増田副議長

ありがとうございます。

今、高く評価された田川地域、神津地域の方はいらっしゃいますか。もし、うちはこんなふうにして活性化してるよみたいなのがありましたら、皆さんに御披露をお願いできますでしょうか。

○石田委員

失礼いたします、田川の石田です。田川は、防犯とちょっとかぶって一緒にやっているのかなと。ちょっと私は自分でやってないので分からないんですけど、各町会から数名出していただいて1つの見守り隊というのができていると思います。やはり、ロコミというかやっぱり皆さんが誘い合って、見守りやってくれへんかなとかって言って、毎日となるとやっぱり大変だし疲れるし、夏なんかは暑いときもありますので、週1回でいいからとかって言って誘い合っているような感じだと思います。その時間は必ず行くっていう。でも、負担にならないように人数をそろえて、その人が休みたいって言ったときはお気楽に休めるように構成していると思います。

以上です。

○増田副議長

急に振りまして申し訳ありませんでした。でも、今のお話は参考になるかと思います。その方たちの負担がないようにということだったり、その方たちがチームとして動いていて、コミュニケーションが取れているっていうようなことがなければ、なかなか続かないのかなというふうに思いました。

○奥委員

十三は企業としていて十三なんですけど、住んでいるところは木川で見守り隊をやっているんですけども、やはり減少がひどいですね。やっぱりできないので、PTAの役員さんと同じように、少ない人で頑張るからまた頻度が上がるというので、ま

すますしんどくなっているのが現状かと思います。そこを打破したいということで、誰でもいいやん、10分でもいいやん、5分でもいいやんとかって提案したんです。せっかくダイヘンさんからもお金をもらえるっていうんだったら、チョッキでも買ったら、よそ着てはるやんって言うんですけれども、個人に与えるものはあかん、個人に持たすものはあかんっていうことで反対されて。その見守り隊の隊長の方がせっかく提案したのを一蹴されてしまっているのが現状で。やりがいがあるんかいって言われたら、確かに今やりがいがないのかなと。そこでやりがいを作っていたきたいというか、僕らも一生懸命上げていくんですけれども、やはりまだ地域の方たちの考えというのは変わらないことによって、身動き取れなくなって悪循環になっているような気がしていますので。もうちょっと柔軟に、そんなどンドンどンドン変えていったらええやんみたいな空気を作るということを仕掛けられればいいのかなというふうに思っ、期待しています。

○増田副議長

ありがとうございました。

田川地域は大きな、鼻高々でお帰りになっていいと思います。

それでは次第に則して。ありますか。

○中井委員

野中の方がおられましたら、ちょっとお聞きしたいんですけど。先般、耳に挟んだんですけども、防災の関係で、野中地域で防災センターというんですか、ボランティアを社会福祉協議会の横というか下というかそういう形で今月から設けられてるかどうかは知りませんか、私ちょっとボランティアの募集をそこで野中の会館で集約してやられるということをお聞きしたんです。これはもう今月から始まっておられるんでしょうかね。御存じの方おられたら、市の職員の方でも結構なんですけども。

○米山委員

その話、私はちょっと聞いておりませんが、少なくとも今のコロナ状態で防災訓練

もまともにできないので。取りあえず、防災リーダーは全て教育するっていうことは聞いておりますけども、そのボランティアっていうのはちょっと私、耳にはしていません。申し訳ございません。

○中井委員

集約は野中でやられるということでもいいんですか。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

それと違うのかもしれませんが、実はこないだ。市民協働課の舟木でございます。すみません、話を途中から入らせていただきます。

9月19日に区民センターで、区社協さんが主催で災害ボランティアの養成講座というのを開催いたしました。それでその際に、区民センターの2階のそばにボランティアセンターを設けるんだと、そういう御案内はされておられました。それで、そのときにボランティアの方、そのときは全区じゃなくて区内全部応援の方を対象に希望される方に受講していただいて、いろんな地域でのボランティア活動についてマッチングゲームといって、こういう災害が起こったという想定の下に、こういうボランティア要請がきてるけどあなたはボランティアセンターの職員として、どういうふうな人を派遣していきますか、ボランティアがたくさん殺到する、それをマッチングさせていくというゲームをやったんです。そういうのをやった、そのことなんです。その際に御紹介があったのは、ボランティアセンターというのを設けますので、どうぞよろしくという区社協さんからの御案内がございました。でも、そのお話ではないかなと思います。

○中井委員

多分、そういうプロセスだと思います。私のほう、もうそれが決定したような形で、対外的に台風にしる、地震にしる、そういうボランティアの集約をそこで、野中さんでやられるということを決めたようなことを聞きましたんでね。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

野中地域というか、区民センターがそこにあったからではないでしょうか。そこで、別に野中の地域に限った話ではございませんので。

○中井委員

そうですか。分かりました。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

その話ではないかなと思います。ちょっと違うかもしれませんが。

○中井委員

そういうことだと思います。ちょっと私、会合でそういうことをちらっと小耳に挟んだもので、確認したかったんです。

それと私、先般ちょっと防災マニュアルという形の、正式な危機管理室から去年一昨年ぐらいに出てるやつで、「よどマガ！」のハザードマップと違いますかって言われたんですけど、ちょっと私、名前をど忘れして、防災マニュアルというのが正式な名前で小冊子が出てますので。そのことをちょっと先般言って詳しくできなかったんですけど、そういうことで以前から出てるやつで、多分刷新されると思います。今度どうなるか分かりませんが。ごめんなさい、説明だけさせていただきます。

○増田副議長

ありがとうございました。

それでは次第に則して、3、議題（2）を進めさせていただきたいと思います。

初めに議題（2）「区政会議の運営」について、区役所から説明をお願いします。

○藏本政策企画課担当係長

それでは説明させていただきます。9月15日に意見交換をやったとき、コミュニティ力向上部会の奥議長と横山副議長からも御提案があったんですけども、区政会議をオンラインでできないかという御提案がありまして、先日書面で行ったアンケートで意向確認させていただいたところです。一応、区役所のほうで今想定しているのは、あそこのスクリーンにパソコンの画面を映して、Z o o m じゃないんですけど、Z o

o mみたいなソフトを使って、お家でパソコンを使える人がここまで来なくても会議に参加できる。その人が映っている画面を前に映して、その人がしゃべっている、しゃべるときは手を挙げてもらって、マイクを通じてしゃべってもらうみたいな形でできないかっていうのを、ちょっとほかの区でも今挑戦しようとしてる区があるので参考にしながら考えているところです。

実際にやるかどうかはおいといて、この前のアンケートの結果は、賛成が22人中6名しかいなかったの、じゃあやめましょうという話ではなくて、何で賛成だと思っているのかとか、何で反対だと思っているのかっていう、それぞれの御意見を1回伺った上で検討を進めたいなと思っていますので、皆さん自由に御意見いただけたらと思います。

○増田副議長

ありがとうございます。

それではどなたか、御意見等ありますでしょうか。

○横山委員

横山です。今質問された中で、反対の意見というような表現やったんですけども、多分そういうことではないような気がするんですよね。参加されますかですから、リモートすることに反対。

○藏本政策企画課担当係長

そうですね。ちょっと反対ということでは。

○横山委員

ということではないような気がするのです。

○藏本政策企画課担当係長

自分は使いたくないみたいな。

○横山委員

多分今の世の中って、そうだと思うんですよね。リモート参加したい人はそういう

形が選ばれて、別にこの会議スタイルがなくなるわけではないので。選択肢の1つとしてそれを選びたいってことだと思いますので、そういう形でちょっと意見を聴かないと。

○藏本政策企画課担当係長

失礼しました。なぜやりたくないのかっていう視点からも、参考にさせてもらえたらと思っていますので、ぜひお願いします。

○増田副議長

なぜやりたくないと言われている方で、何か御意見ありますか。

○藏本政策企画課担当係長

やりたい側でもいいんですけど。

○横山委員

やりたくないっていうのもないので。聞き方としたら、参加しますかで22のうち6名やったんですよね。そのほかの方は、別にやりたくないっていうわけじゃないと思いますので。逆にその方たちは、どういう理由で参加しないのかを聞いたほうが。

○藏本政策企画課担当係長

そうですね。

○渡土委員

どういう理由でやりたくないという話じゃなくて、要するに自分の家のほうにそういうインフラ、パソコンとか含めて、それがないからだと思うんですが。ただ単にそれだけだと思うんですよ。そうするとこれ全部やろうとすると、そのインフラを個人がまたパソコンを買ったりとかしないといけない。皆さん、パソコンは持っていらっしゃると思うんですけども、機種にもよりますからね。私もS k y p eをやっていますが、そういうインフラがない方も多分いらっしゃるんじゃないかなと思うんですよね。そういう方がやりたくないということじゃないかと思います。

だから、区役所全部それをそろえてくれるんだったら、あとそういう教育をしてく

れるんだったら、使い方を。全部やるんじゃないんですかね。

○藏本政策企画課担当係長

一応、機材をさすがに買うのは難しいんですけど、御自宅に伺って一緒にセットアップして使い方を練習するぐらいまでは、やらせてもらいたいなとは思ってます。

○福岡委員

ソフトは何を使われてるんですか。

○藏本政策企画課担当係長

マイクロソフトのT e a m s っていう。大阪市のルールでZ o o m が使えないんです。

○福岡委員

そうですか。

○藏本政策企画課担当係長

フリーソフトなんで、T e a m s をダウンロードさせてもらって、試しにやって。

○渡士委員

S k y p e は駄目なん。

○山本淀川区長

S k y p e を大阪市はもともと使っていた。セキュリティ的に問題があるということで、I C T の戦略室のほうが一応、T e a m s で大阪市はいこうということに今なっているかと思います。ビジネスを前面に出してたので。ちょっとしたのと、ちょっと切り替えますっていうのを、設定が。

○渡士委員

一番使われているのが、S k y p e なんです、一般的に。

○山本淀川区長

それでこの場では、別に先ほどおっしゃったように、全員がネットによる会議をしようと思っているわけではないので、お家に環境があってそれをやろうっていう方は

そういうのも選択できるように、幅をちょっと広げようかなということです。全員が何が何でも、そういうネットでしなければならないというような押しつけをするつもりは区として全然ないですけども、例えばやっぱり何やかんや言うても区役所まで来るのが大変やと、家にそういう環境もあるからそういうのがやりたいという方であれば、いろいろうちもできる工夫をして、そういう選択肢、参加の選択肢を広げていけないかっていう取組をしたいなということです。その辺はよろしく御理解のほどお願いします。

○光在委員

今、区長がおっしゃったとおりなんですけど、私も思っていますけど、別にリモートで参加をしたいという方はされたらいいと思うんですね。別に私自身のことで言うと、パソコンを使いこなす自信とかそんなのないですから、しません。ただ、使いこなせれば、別にリモート参加はありじゃないかなと思います。

○増田副議長

ほかに。今、私もちょっと意見を言わせていただければ、今の区長さんのお話を聞いて、なるほどなというふうに思ったんですね。例えば、今日でも泉水議長、すごく残念だったと思うんです。でもただ、もしここでちゃんと Teams の会議でも入れますよみたいなのがあったら、もしかしたらちょっとだけでも「今日は行きたかったです」みたいなこともあれば、何かちょっと気持ちも楽になったりとかするのかなっていうことがあるので、それもありっていう選択肢があるってことであればいいのかなというふうには思いました。

○藏本政策企画課担当係長

ありがとうございます。ちょっとすみません。私の説明が足らなかったのを区長に補足してもらいましたが、趣旨としてはそういうことです。来週、東淀川区が区政会議、講師の区政会議の意見交換会を実際にリモートでやるという話を聞いてますので、ちょっとそこを傍聴して、どこまで混乱が生じるのかとか実際にやるんだった

ら不具合がどこまであるのかっていうのを見ながら、ちょっと取りあえず1回ぐらいはチャレンジしてみたいなと思っていますので。また改めて相談させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○増田副議長

ほかにいかがでしょうか。

○奥委員

ごめんなさい、こうしたらどうですかっていう言いだしっぺみたいなもんなんですけれども。私も自分で日頃年配の方にパソコンやスマホの使い方を指導しているという活動をしています。やはり、リモートっていうのを皆さんは否定するんじゃないと思うんです。ただ、「ようせんわ」と「分からへんわ」と「今さら」っていうことは出てくると思うんです。でも、今も小学校も来年度からもう一人一人、インターネットの回線も全部家庭に配付して、子供たちも義務教育でもインターネットでつながるということはもう、していくわけなんですね。コロナの中ではなかなか会えない、会ったらやっぱりどうしても離れなあかんとか、そういうことから思えば、リモートであれば絶対そういうことを全然心配することもないわけなので。子供たちがあと10年、20年していく時代っていうのは当たり前になることを、今から大人だってやっていきませんかっていう提案なんです。コミュニティも絶対落ちています。会う会合の量はぐっと減っています。だから、次回、区政会議、何年何月何日何時から、Zoomに参加の方もありますっていうことだけの話なんですよね、要は。来られる方は来てくださいね。でも、めんどくさい方は家でZoomでも参加できます、Teamsでも参加できますよ。パソコンが基本って言われますけどね、スマホだけでも大丈夫ですよ。スマホのアカウントで、この画面をこう見てしゃべるだけで、十分全員の顔も見られますんですわ。パソコンがなくなっても、これだけでできます。そういったことも、どなたかが教えなきゃならないっていうのであれば、ちょっと一度やりたいけどできへんねんっていう人らを御指導するっていうことも私は技術的にできま

すので。皆さんが反対されないのであれば区政会議を密にやっていく、そのための手段としてネットでのこういうオンライン、リモート会議というツールを使っていて、いるということは、皆さん誇れるものになっていただきたいと思います。

ぜひチャレンジしていただければ。

○増田副議長

それでは、ほかに意見がないようでしたら、以上で本日の議題は終了となります。

全体を通して、何か御意見のある方がいらっしゃいますでしょうか。

よろしいですか。

それでは時間が参りましたので、ここで進行を事務局にお返しします。

○久保政策企画課長

増田副議長、議事進行をどうもありがとうございました。

委員の皆様の貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。

前回8月の会議並びに本日の会議でいただきました御意見なり、また御意見票でいただく内容につきまして、まだ区役所からきちんとお話、回答してないものにつきましては、決して聞きっ放しにするということではなく、できる限り整理しまして後日改めて書面によりましてお示ししたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

また、区政会議のリモート会議という話も議題に上げさせていただきましたけども、いろんな技術的課題なりを踏まえまして、検討を進めていきたいと考えております。

本日の議題につきましては、以上でございます。

市会議員の皆様、坂井議員、寺戸議員、忙しいところ最後まで御臨席いただきまして、本当にありがとうございました。

本日の会議で、時間がなく発言ができなかった御意見なり御質問がありましたらば、先ほどお配りさせていただきました御意見票にお書きいただきまして、10月16日金曜日までに事務局まで郵送かメールにて御提出をお願いします。

それでは予定の時間も参っておりますので、これをもちまして淀川区政会議を終了

させていただきます。

なお、次回の区政会議につきましては、来年の２月から３月に来年度の運営方針の策定状況等について、本日と同じような形、部会並びに全体会議のような形で開催を考えておりますが、何せ新型コロナウイルスの影響が不透明な状況ではありますので、その影響を勘案しながら開催の判断につきまして、改めて御連絡をさせていただきますと思います。

なお、本日の会議から２週間以内に体調が悪くなったとか、ＰＣＲ検査を受けたとかのことがもしありましたら、事務局まで御一報をよろしくお願いします。

それでは長時間になりまして、ありがとうございました。

これをもちまして、区政会議を終了させていただきます。

—了—